

平成 26 年度 地域における地球温暖化防止活動促進事業

# 民間の団体等における地球温暖化防止 活動の活動調査報告書

平成 27 年 2 月

一般社団法人 環境創造研究センター



平成 26 年度 地域における地球温暖化防止活動促進事業

## 民間の団体等における地球温暖化防止活動の活動調査報告書

### 目 次

調査の実施概要	1
【ヒアリング対象団体①】「へきなん市民環境会議」	2
【ヒアリング対象団体②】「豊橋うみがめクラブ」	6



## 調査の実施概要

### (1) 調査の目的

本調査は、愛知県の「地域における地球温暖化防止活動促進事業」の一環として、愛知県において、地球温暖化対策関連の活動に取り組む NPO 等民間団体（企業除く）の活動内容、活動状況について把握することを目的に実施した。

調査結果については、今回の調査団体の活動が広く認知されるようウェブサイト等での公開・紹介を行い、関係機関等への情報提供も実施する。

### (2) 調査実施概要

調査実施主体	愛知県地球温暖化防止活動推進センター (一般社団法人環境創造研究所)	
調査対象	県内で活動する民間団体 2 団体	
調査方法	調査方法	・各団体のリーダーへの 1 時間程度のヒアリングによる調査を行った。 ・調査後、調査結果のとりまとめ内容を各ヒアリング対象者に確認いただいた。
	調査時期	・ヒアリング①：平成 26 年 10 月 22 日（水） ・ヒアリング②：平成 26 年 11 月 17 日（月）

### (3) 調査項目

- 団体の活動内容、活動状況
- 構成員等の人数、構成員の主な所属先や職業等
- 活動の頻度や時間帯など
- 活動の運営方法
- 活動による効果・影響
- 活動上の課題
- 行政・企業・ほかの NPO 等民間団体との連携状況・連携の可能性  
(ほかの推進員との連携状況)
- 行政・企業等との連携・協力において課題となっていること
- 行政・企業等に期待したいこと
- 愛知県センターに期待する役割

など

## 【ヒアリング対象団体①】「へきなん市民環境会議」

ヒアリング対象者	代表：竹原幸子氏
概要・目的等	碧南市環境基本計画の推進にあたり、市民・事業者・行政の三者協働で実践することによって実効性のある環境基本計画とし、もって本市の環境行政を統合的かつ計画的に推進するため。 リーディングプロジェクト推進のため、毎月1回定例会を開催している。
設立年月日	平成16年8月3日
会員数・男女比	26名（男性17名／女性9名）
主な活動場所	碧南市役所談話室で会議　他随時活動
主な活動日時	例会は月1～2回　木曜日　その他随時
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境リーダー養成講座</li> <li>・みどり再生</li> <li>・油ヶ淵、公有水面の水質検査、ゴミ拾い</li> <li>・7万人の環境宣言</li> <li>・碧の道　里親宣言</li> <li>・生ゴミのたい肥づくり</li> <li>・打ち水など</li> </ul>

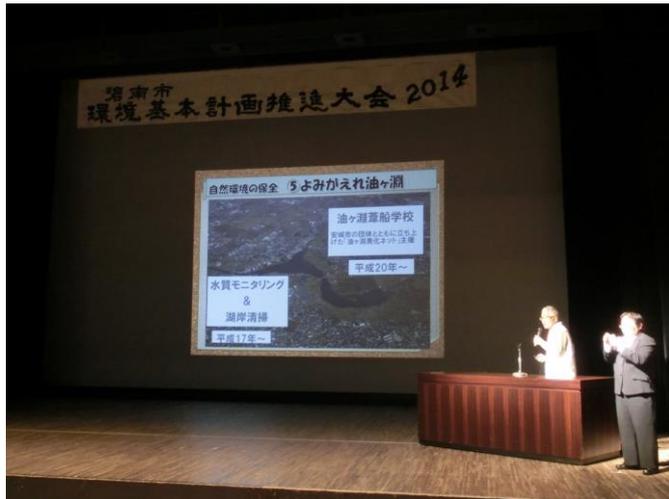
出典：へきなん市民活動サイト「みなとも」(<http://hekinan.genki365.net/>) 2014年10月末現在

- 「へきなん市民環境会議」はもともと、市民参画による「碧南市環境基本計画（平成16年3月）」策定のために平成14年から実施してきた勉強会の有志が参加し、環境基本計画完成後、環境基本計画や市の環境の取り組みなどをサポートしていくために現在まで活動し続けている。既に活動開始から10年が経過し、今年は11年目に入った。
- メンバーの構成は、市民19人、事業者7人で、これに市の担当課が加わっている。
- 事務局は市の環境課が務めており、月1回の例会の運営支援をはじめ、団体のサポートや庁内の調整役を担っていただいている
- 活動は、自然、まちづくり、ひとづくりの3分野からなる分科会があり、それぞれの分科会が具体的な施策となるリーディングプロジェクトを設定して取り組んでいる。
- 愛知県の助成金事業「あいち森と緑づくり事業」の発表会では、環境基本計画策定のための諮問会議をその後も10年間存続し、活動してきていることについて、他の自治体・団体などから「すごい」というお言葉をいただいた。ここまで継続してこられたのは、やはり市と委員の意識の高さのおかげであると考えている。
- 主な活動として、毎年、「環境基本計画推進大会」を市と共催しており、ここでは当会議の活動発表とともに、市内小中学校・高校による環境への取り組みについても発表いただいている。
- 7月に市役所前通りで開催する市民まつり「元気ッスへきなん」では、会場道路での「打ち水大作戦」を実施し、市民に啓発している。
- 「あいち森と緑づくり事業」の活動では、今年度、「森の見学会（モリコロパーク・もりの学舎へGo!）」を開催して公募参加者とともにモリコロパークの森を散策。また、「段戸裏谷原生林エコツアー」では、ブナの

原生林を講師の案内で歩き、その開催後には参加者による撮影写真の作品を市役所ロビーに展示する写真展をその都度開催している。

- 11 月開催の市民フェスティバルにも毎年参画・出展しており、今年 2014 年は、①へきなん市民環境会議として：7 万人の環境宣言、碧の道里親宣言の受付。生ごみ減量化、食品ロス P R と啓発。②あいちエコチャレンジ 21 として：自転車発電、白熱電球と L E D 電球の比較実験、地球温暖化もの知りクイズを実施する。
- 7 万人の環境宣言は、「電気をこまめに切ります」などといった、市民各自ができる環境にやさしいことを宣言した上で実行してもらうもので、目標 7 万人（碧南市人口は約 7 万 3 千人）に対し、現在までに 3 万人弱ほどの宣言が集まっている。
- 参加体験プログラムを提供するあいちエコチャレンジでは、碧南市以外に在住する推進員の方にもご協力をいただいています。
- 市内の中学校では総合学習の一環として「おもしろ講座」の授業があり、この講座でへきなん市民環境会議の委員 2～3 人が廃油を使ったロウソク作りの講師を行っている。
- 市の冬の風物詩イベント「きらきらウォーク」（会場となる通りでイルミネーション装飾、イベント開催、出店など行う市街地活性化・交流イベント）では、廃油を用いた行灯づくりを会議のメンバーが中心になって取り組んでおり、この行灯には 7 万人の環境宣言で集められた宣言が書かれている。
- メンバーの呼びかけをきっかけにして、「食品ロス削減」も活動テーマの一つとなっており、市民に対し「食品ロス削減」を P R する取り組みもはじまっている。
- へきなん市民環境会議の現在の課題は人材育成であると考えている。やはり若い人にも参画していただける団体になってほしい。また、イベント等での参加者募集を呼びかけても、なかなか人集めが思うようにいかない点も課題となっている。
- 行政との連携では、事務局である市の担当課の支援が細やかで感謝している。また、油ヶ淵のヨシの刈り取りも、市の協力により、刈り取ったヨシを粉碎、堆肥化して、それを市道の街路樹の根元に撒き、雑草を防ぐ活動を計画している。
- 企業については、事業者メンバーの中に、担当者が退職したことをきっかけに参加しなくなってしまった企業も過去にはあり、参加の輪を拡げ、維持する努力は重要と考えている。
- 他の団体とは、リーダー役と個人的に知り合い同士である場合もあるが、活動自体の連携・協働までは行ったことがない。リーダーが個人としてこちらのイベント等に参加して下さることはあっても、団体としてはそれぞれの活動で手一杯になっている。また、そうした団体に所属している方たちの多くが社会活動に対して意識が高く、既に複数の団体・活動に所属しているため、それ以外の活動や、団体同士の連携・協力といったことまでは難しいと言わざるを得ない。
- ほかの推進員（他地域在住の推進員）との連携・協力では、あいちエコチャレンジ 21 のように、体験イベントや出前講座などを実施する際に、その分野に詳しい推進員に講師・スタッフとして協力いただいたり、こちらも他地域のイベントの支援・協力に出向くなどのケースがこれまでも度々あった。推進員それぞれの得意分野を活かして協力し合っている。
- 愛知県センターは様々な活動を展開しているが、折角の機会なので、より多くの推進員がセンター主催のセミナーなどに参加されることを期待したい。

下：碧南市環境基本計画推進大会 2014 での発表の様子  
 右：2013 年碧南市環境基本計画推進大会のチラシ



## 碧南市 環境基本計画推進大会

2013

- **へきなん市民環境会議の環境活動実践発表**  
 田んぼ＝生き物＋水 「碧南環境基本計画」プロジェクトより
- **碧南海浜水族館の環境活動実践発表**  
 水族館は環境保全活動に貢献できる？できない？
- **小学生の環境活動実践発表**  
 榑尾小学校 「水をきれいにしよう」  
 鷺塚小学校 「水博士になろう  
 ～池ヶ淵の水質調査を通して～」
- **環境活動パネル展示**  
 市内小中学校や高等学校の児童・生徒の環境活動を  
 パネルにまとめましたので、ぜひ見てください。

<b>日時</b>	平成25年2月16日 <span style="color: red;">土</span> 13:30(13:00開場)～15:00
<b>場所</b>	芸術文化ホール/シアターサウス
<b>入場料</b>	無料(全席自由) <span style="float: right;">手紙通訳：吉田美千代、西原香織</span>
<b>問合せ</b>	碧南市環境課：TEL.41-3311/FAX.48-2940

★碧南市・へきなん市民環境会議★



「よみがえれ油ヶ淵」活動の一環としての油ヶ淵でのモニタリング調査と湖岸・周回道路の清掃



「第42回市民植木市」(2014年4月開催)で食品ロス削減のPR活動を実施

下:「段戸裏谷原生林エコツアー」の参加者(竹原氏提供写真)  
 右:冬イベント「きらきらウォーク」で、廃食用油を利用した  
 ロウソクの行灯を作成(7万人の環境宣言の宣言を行灯に  
 貼り付け)



7万人の環境宣言の応募用紙

写真は特に記載がないものはすべて、碧南市公式ウェブサイト、碧南市報「こうほう碧南」より

## 【ヒアリング対象団体②】「豊橋うみがめクラブ」

ヒアリング対象者	代表：大須賀哲夫氏
概要・目的等	表浜にやってくる「アカウミガメの調査、保護活動を通して自然環境への理解を深め、アカウミガメが生息する環境の保全に貢献すること」を目的として活動を実施している。
設立年月日	平成 14 年 4 月 14 日
会員数・男女比	11 名（男性 10 名／女性 1 名）
主な活動場所	豊橋市域の表浜海岸 など
主な活動日時	年間を通じて表浜の自然環境を観察している（特に砂浜の様子）。
主な活動内容	<p>1. 豊橋市域の表浜海岸に上陸・産卵・ふ化するアカウミガメノ実態調査をする。</p> <p>2. アカウミガメの保護及び表浜の自然環境保全のための啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表浜の自然やアカウミガメの観察会の実施。</li> <li>・要請に応じてアカウミガメや表浜の自然についての出前講座や学習会を実施する。</li> <li>・要請に応じて調査データ等の情報を提供する。</li> </ul> <p>会員数は少ないがウミガメが好きで「これを何とかして守ってやりたい」「ウミガメの産卵という自然現象をいつまでも見続けることができる表浜であってほしいという思い」で観察活動を行っている。</p> <p>毎年、5月から8月は上陸・産卵期、7月から10月はふ化期で浜へ出て調査活動に専念し、上陸・産卵・ふ化の数値の変化に一喜一憂しながら楽しく活動している。</p>

出典：東三河市民活動情報サイト「どすこいネット」(<http://genki365.net/gnkh02/pub/index.php>) 2014 年 11 月現在

- 「豊橋うみがめクラブ」は、5 月～10 月にかけて豊橋市の表浜に上陸・産卵・孵化・脱出する、アカウミガメの実態調査を行っている。
- アカウミガメの調査では、表浜に産卵された卵がどれだけ孵化して子ガメが海へ還ったかを記録する調査を行っている。ウミガメは上陸・産卵から孵化まで平均約 60 日かかる。この長短や孵化率は、夏場の気温に影響される。ウミガメは一回に平均 120 個前後の卵を生み、孵化率は例年 70%程度であったが、今年は、現在調査結果の取りまとめ中であるが、おおよそ 60%前後になるものと予測されている。
- 卵の孵化率が下がった原因の一つである野犬、タヌキ、キツネ、ハクビシンなどによる食害が増加し、今年は特にアライグマによる被害もあった。この調査では、足跡調査やセンサーカメラによる動物の特定などで、豊橋総合動植物公園にご協力いただいている。
- タートルストラディング（浜にうちあげられた死体）調査も行っている。死体の外見観察（種の判別、雌雄の判別、個体の計測、死因の推測）を行い、例えば、船のスクリューに巻き込まれたのか、サメに捕食されたのかなどを調べる。外見からは死因がわからなかった場合には解剖を行うこともある。解剖のケースでは、ウミガメの喉が内出血しているものが多い。ウミガメは海面に浮上して呼吸を行うが、漁の網に引っかかって

浮上できずに窒息死したものと考えられる。今年は無ミガメの死体を 4 頭発見している。

- 近年、国内の砂浜では侵食問題が深刻になってきており、豊橋市内の海岸でも、天竜川にダムができたことによって、河川上流から海へと流れてくるはずの砂が堰き止められてしまい、遠州灘の砂浜に供給される砂の量が減ってきている。そのため、アカウミガメの調査とともに、ウミガメが産卵を行う場所であり、ウミガメの産卵や生態に大きく影響する砂浜についても、どのように変化してきているか調査を行っている。
- 侵食により、砂浜の縮小も問題であるが、砂の粒子の大きさも問題視されている。卵は砂の中で呼吸しているが、天竜川から新たな砂が補給されなくなり、浜辺には同じ砂が堆積し続けている。その結果、粒子の細かい砂が多くなり、砂の中の通気性が悪くなって卵の呼吸を阻害していると懸念されている。以前の砂の粒子は 0.6～0.7 ミリの大きさだったが、現在は 0.1～0.2 ミリになっている。
- 「豊橋うみがめクラブ」のメンバーは 11 人で、現在調査活動を行っているメンバーは 10 人である。表浜 13.2 キロを区割りして一人ひとりが担当区間を持ち、調査をおこなっている。メンバーは 50 代や 60 代、70 代が多く、昼間は各自仕事をしている自営業者が多い。20 代のメンバーも一人いる。メンバーはいずれも表浜近くに在住しているわけではなく、早朝に車で数十分かけて浜へ来て、担当区間を歩いて往復して調査を行い、その後仕事へ行っている。メンバーは皆、「カメが好き」という共通点がある。市の支援で保険には加入しているが、調査活動自体は無償で行っている。
- 調査シーズン中の 7・8・9 月には、各月一回程度、アカウミガメの上陸状況、調査状況についての報告会を行っている。また、メンバー同士、毎日、現場（表浜）でも行き交ったり、顔を合わせたりして、情報交換を行っている。
- 調査結果のデータは、市（豊橋市環境保全課）へ提出している。市は、データのとりまとめを行い、2 月頃に最終的な報告書を作成している。クラブのメンバーは豊橋市の「アカウミガメ実態調査委員会」の委員として市から委嘱をうけた形で調査を実施しており、調査委員会は市への提言なども行っている。
- 市からは、保険加入の支援のほかに、調査で使用するナビ端末やセンサー機器、マーカー等が貸与・支給されている。調査報告書の公開も市が行っている。
- また、市には「アカウミガメ保護対策協議会」があり、専門家や関係機関のほかに、浜辺周辺の自治会長も参加し、浜辺で工事等が行われる際には、ウミガメ保護を念頭に指導、協力を仰ぐ体制がある。
- 以前に行われた市のアンケートでは、市民の 98%が表浜にアカウミガメが上陸、産卵していることを知らなかった。しかし、調査活動をはじめ、地域全体でウミガメの保護活動に取り組み、現在では市民の 98%がアカウミガメの上陸、産卵を知っているようになった。ウミガメに対する市民の関心が向上していることを実感している。また、砂浜でマリンスポーツをする人などもウミガメの保護活動に協力してくれるようになっている。
- 砂浜に遊びに来る人のモラルの低下も問題になっている。バーベキューや花火などのゴミ捨てや車の乗り入れなど、止めるようお願いはしているが、止める権限はクラブにないため、対応が難しい側面もある。しかし、日没から日の出までの間、浜辺等への車の乗り入れ禁止ができないか模索しているところで、海岸を利用する人達皆で浜辺を大切する意識の醸成に努めていきたいと考え、モラルアップの呼びかけを行っているところである。
- 侵食問題に対しては、砂の流出を防いでくれる海浜植物の植樹などにも今年から取り組んでいる。また、特定のエリア内で砂を移動させる実験ができないか、関係機関にお願いしているところである。
- 国土交通省の補助事業「エコ・コースト事業」として、波際に設置されていた波消しブロックを、ウミガメの上陸の邪魔にならないよう道路手前に移動させて、ウミガメが上陸しやすい浜辺をつくる事業が進められており、平成 24 年に 880m 区間での工事が完了した。今後、事業実施後の調査等が進められ、効果が実証さ

れることを期待している。

- 「豊橋うみがめクラブ」の団体としての課題は、会員や調査参加者を増やすことである。特に若い人の参加をもっと増やしていきたい。しかし、仕事等があるため、浜辺での調査や、そのほか団体の活動に常時参加していただくことはやはり難しい。この点にどのように対応していくかは今後の課題となっている。
- また、調査シーズンは夏休み期間でもあるため、夏休み中の市内の高校が調査に協力してくれている。市も表浜のアカウミガメ調査員養成講座「竜宮探検」を開催しており、ウミガメや調査に興味をもった人が講座や調査に参加している。今後は表浜の近くに所在する高校などにも参加を呼びかけていく予定である。
- 実際、こうした取り組みを通じてウミガメに興味を持った子どもの中には、ウミガメの研究を行う大学に進学した子どももいる。まだ少数しかいないと言われている国内のウミガメの研究者が地域から出てくること、増えることを期待している。
- そのほか、市内の老人クラブや企業がウミガメ保護のため、毎月、海岸清掃に取り組んでいる。小中学校・高校も市の野外活動センターでウミガメについて学ぶ校外授業を実施している。
- 毎日浜の様子を見ている観光地引網をしている網元などからは、ウミガメや浜辺に関わる情報提供を行うなど、地域の中での協力・連携も行われている。



表浜の海岸



上陸したアカウミガメ



アカウミガメの卵



ウミガメの上陸・産卵調査



子どもたちが参加した自然観察会



市主催「竜宮探検」の授業の様子



市のアカウミガメ保護啓発リーフレット



「平成 25 年度豊橋市におけるウミガメ保護調査活動に関する報告書」

写真はすべて豊橋市公式ウェブサイトより